

## 東構協・青年経営者委と類設計室

## 「第14回かぜのかい」を開催

## ファブと構造設計者の共創



前田副理事長による発表

冒頭のあいさつで黒川慧  
・類設計室構造設計部課長  
は、「建築・鉄骨業界を取り巻く構造の中で、業者同士の不十分な意思疎通による生産性の低下や、職能者の高齢化による新規人材の減少といった課題がある。ゼネコン、サブコン、専門工事業者、設計者、材料メーカーなどがフラットに見や情報を交換したり、技術の順当な評価を行ったりすることで、人材確保や技術継承の実現を目指していきたい。当会は2017年に発足し、途中コロナ禍で活動を休止した時期もあるが、今後も意見交換できる場づくりをしていく」と、改めて活動趣旨を述べ、活動への賛同を求めた。

今回は、設計と製作のギャップの克服、技術的工夫、企業同士のコラボレーションの成功の秘訣など、実際に現場で試行錯誤を重ねた企業同士の事例を交えて、業界の未来について考える機会を共有した。

初めに、東構協の前田茂昭副理事長(前田製作所社長)が「鉄骨ファブと設計者の共創の実践と技術追求」をテーマに、類設計室と前田製作所が協働した



黒川 課長

「駒澤大学 駒沢キャンパス駐輪場における既存地下躯体の上に建つ浮遊感のある鉄骨斜格子屋根」の発表で、品質を高めるための工夫などについて説明。前田副理事長は「ゼネコン、鷹ファブ、構造設計など各企業同士の良い連携によって、見慣れた材料でも凝った構造体の製作が可能になる」などと話した。

続いて、東構協の小室健太理事(小室鉄建社長)が



小室 理事

「変化する時代におけるファブリケーターの在るべき姿」をテーマに発表。小規模会社の減少によるファブリケーターの二極化、全体的な生産量の減少などによる案件の質的変化、環境、技術継承、人材不足などの企業持続性、ファブ内設計者依存を、業界を取り巻く課題として挙げた。解決に向けて①完全ペーパーレス化②DXによる業務の見える化——などの提案をする

とともに、新しい仕組み導入時の課題と克服についても触れた。「構造的課題を解決することによる持続可能な組織構造への変革が今後ファブリケーターの生き残り発展の鍵」と結んだ。当日は九州第一工業による「格子母屋を中心とした空間構造の設計製作とBIM×スキャナによる3D設計と製作施工の新たな融合」をテーマとした発表や、センクシア、コンドローテック、スリーエムジャパン、コリヨー建販、トリンプル・ソリューションズなどによる技術や製品の紹介も行われ、質疑応答も活発に行われた。